

純心教育の理念

建学の精神

「聖母マリアのように 神さまにも人にも喜ばれる女性の育成」

(創立者 江角ヤス先生の言葉)

「建学の精神」の基盤となっている聖書の言葉

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。
また隣人を自分のように愛しなさい。

(「最も重要な掟」マルコ12・28～34参照)

教育理念

「カトリック精神に基づく人格教育を行い、有為な人材を育成する」

(寄附行為より)

学園標語

「マリアさま いやなことは私がよろこんで」

(創立者 江角ヤス先生の言葉)



「純心」の名前の由来

江角ヤス先生は「純心」という名前について次のように述べておられます。

「創立者（早坂久之助ささきのすけ司教）は、学園を聖母の汚れなきみ心に奉獻し、聖母のように、神さまにも人にもよろこんでいただける女性を育てたいとの考えで、聖母の汚れなきみ心、即ち『純心』という名の学園を創立なさいました。」

〔学章の意味〕

心という文字に聖母マリアの5つの御徳である謙遜・勤勉・純潔・信頼・愛徳を音楽の五線にしたものです。

この学章は鹿児島純心女子学園の象徴です。



建学の精神

「聖母マリアのように 神さまにも人にも喜ばれる女性の育成」

1 本学の創立

鹿児島純心女子学園の設立母体は純心聖母会というカトリック女子修道会です。この修道会は1934（昭和9）年に長崎の大浦天主堂のサンタ・マリアの祭壇の前で創立されました。創立者は教皇ピオ11世によって日本人として初めてカトリック司教に叙階された早坂久之助司教です。

その早坂司教によって純心聖母会の初代会長に任命され、共同創立者としての使命を果たされたのが、本学の創立者であるシスター江角ヤス先生です。

江角先生は、早坂司教が純心女子学園を創立した目的、すなわち建学の精神を次のように述べておられます。

「創立者は、学園を聖母マリアの汚れなきみ心に奉獻し、聖母のように、神さまにも人にもよろこんでいただける女性を育てたいとの考えで、聖母の汚れなきみ心、即ち『純心』という名の学園を創立なさいました。」（出典：江角ヤス「遺産」『同窓会だより』純心女子学園同窓会、昭和52年）

こうして長崎に最初の学校である純心女学院が昭和10年に開校されました。

それから5年後の昭和15年、軍国主義の風潮のなか、カナダから来日した聖名修道女会によって運営されていた鹿児島の聖名高等女学校の存続が困難になったため、これを引継いでほしいとの要請がカトリック鹿児島教区長より江角先生にあり、純心聖母会が引継ぐことになりました。昭和16年、聖名高等女学校の設立者は財団法人私立新栄女子学院から財団法人鹿児島純心高等女学校に移行し、校名も聖名高等女学校から鹿児島純心高等女学校に変更されました。また戦時中の昭和19年には、紫原にあった鹿児島純心高等女学校の校地・校舎は県立医学専門学校の校地・校舎として強制買収され、やむなく谷山の小松原にあったフランシスコ会修道院跡（カトリック鹿児島教区所有地）を買い取り校舎に改修して移転しました。第二次世界大戦後、学校制度が改革され高等女学校は新制の中学校と高等学校になり、財団法人名も鹿児島純心女子学園に改められました。また昭和23年には、紫原にある旧純心の校地（現在地）・校舎に対する返還運動がPTAを中心に起こり、純心の校舎等は在外資産であったこと



が認められ再び紫原の地に戻ることができました。

このように、昭和22年の「教育基本法」と「学校教育法」の公布、及び昭和24年の「私立学校法」の制定を経て、本学園も昭和26年に学校法人鹿児島純心女子学園として登記され、現在の学校体制となりました。

その後、戦後の復興期を経た昭和30年頃より、鹿児島純心女子高等学校のPTAから短期大学設置の要望があがり、長年の準備期間を経た昭和35年、ついに念願の鹿児島純心女子短期大学が創立されたのです。

2 建学の精神

本学の教育を特徴づける「建学の精神」は、「聖母マリアのように 神さまにも人にも喜ばれる女性の育成」という言葉で表現されています。この建学の精神は、「カトリック精神に基づく人格教育を行い、有為な人材を育成する」(出典：鹿児島純心女子学園寄附行為)との教育理念に基づいています。また、この建学の精神はイエス・キリストの生き方や教えを記した新約聖書の中の「最も重要な掟」の中に、その源泉を見ることができます。それは次の言葉です。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また隣人を自分のように愛しなさい。」(マルコ12・28～34参照)

人間が最も大切にすべき生き方として、イエスは「神を愛すること」と「人を愛すること」を挙げておられます。そして聖書全体はこの「最も重要な掟」に基づいているのであり、神を愛し人を愛する生き方を自分の人生の指標とし、それを実行した人は、永遠の命を得ることができるとイエスは教えておられます。(ルカ10・25～36) そのような普遍的な価値を持つ「最も重要な掟」を自分の生き方とするように、江角先生は純心女子学園に集う学生・生徒・園児たちにしっかり教えたかったのです。そこで、この大事な人生の要点が子どもたちによりやさしく理解されるように、江角先生は、「神を愛する」という言葉を「神に喜ばれる」という表現に、また「人を愛する」という言葉を「人に喜ばれる」という表現に言い換えておられます。さらに、人間の中でこの最も価値ある生き方をすばらしく実践なさったのが、イエスのお母さまであられる聖母マリアですので、マリアさまを具体的なモデルとして私たちに提示なさいました。

したがって本学園の「建学の精神」は、「聖母マリアのように 神さまにも人にも喜





ばれる女性の育成」という言葉で表現されているのです。

ところで、この建学の精神は実践されなければ「画に描いた餅」にすぎません。江角先生は、長年の人生経験から「人を愛すること」がいかに難しいかをよくご存知でした。聖書の中でイエスは人を愛する隣人愛について、次のように教えておられます。「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイ7・12) この隣人愛の実践へ私たちを導くために、江角先生は「マリアさま いやなことは私がよろこんで」という言葉を学園標語として掲げられました。

私たちはこの学園標語を1日に1回でも実践しようとするとき、知らず知らずのうちに建学の精神として掲げられている「聖母マリアのように 神さまにも人にも喜ばれる女性」に近づくことができるのです。

3 本学の教育目的

二年間の高等教育機関である短期大学は、四年制大学や専門学校とも違う固有の役割を担っています。短期大学の特徴は教養教育と専門教育およびキャリア教育をバランスよく提供する短期集中的な大学であることです。しかも地域社会の身近な高等教育機関として、その要請に迅速に対応できる地(知)の拠点としての役割を果たしています。さらに若者の育成の面からみると、学生一人ひとりの将来の夢の実現に向けて行き届いた指導ができる高度な教育環境が整っていることもその特徴の一つです。

本学においては、前述の「建学の精神」のもと、神と人とを尊ぶキリスト教ヒューマニズムに基づく人間教育を大学生活全般にわたって実践して、豊かな人間性を培っています。そしてその上にそれぞれの専門教育分野における知識と技能を身に付け、かつ各種の免許・資格等を取得できるキャリア教育を実施しています。しかも本学においては1年前期から2年後期の4つのセメスターにおいて、段階的に職業人としてのキャリア教育を行い、学生の夢の実現に向けて手厚い支援を行っています。その結果、本学の進路決定率は毎年高い数値を示しています。

このように豊かな人間性と高い専門的能力を備えた女性を育成し、社会の持続可能な発展と平和に貢献できる人材を輩出することを本学の教育目的としています。

4 本学女子教育の理想

本学はカトリックの女子教育機関であり、本学の女子教育は、建学の精神にあるよ





うに聖母マリアを女性の理想像としています。創立者江角先生は、本学園の創立40周年の記念講演（1978年12月8日）の中で、本学園を創立した目的は「聖母マリアを理想と仰ぎ、聖母マリアのような、清く、賢く、優しい女性」を育成したためであると述べておられます。

イエス・キリストの母である聖母マリアは、今から約2,000年前、現在のイスラエル（当時はローマ帝国の属州であるパレスチナ地方）で人の目から見れば平凡な人生を過ごされた方ですが、神さまの目から見れば救い主の母としての使命を見事に果たされた方なのです。

江角先生は、聖母マリアについて次のように述べておられます。

「マリア様は二千年前に、田舎で貧しい生活をしていらっしやっただけでも神様の前には非常に気高い存在でした。汚れを心にとめない清さを、努力しながら保ちました。マリア様は、つつましく寡黙な方でしたが、私たちに本当に含蓄のある真理を、考えれば考える程すばらしいものを、永久に残していらっしやるのです。」（江角ヤス「父の日」講演、東京純心女子高等学校、昭和46年より）

マリアさまについて、聖書の中に多く記述されていませんが、少ない記述にもかかわらず、マリアさまが救い主イエスの母として、またイエスから託された人類の母としての役割を「清く、賢く、優しく」果たしておられる姿を私たちは垣間見ることができます。そして現在も、人生の旅路を歩む私たちを照らす「希望の星」「海の星」としての役割を果たし続けておられます。

神と人への愛の奉仕に貫かれた聖母マリア。本学女子教育の目標はこの聖マリアにならう女性を育成することです。

前にも述べたように、純心女子学園の学園標語は「マリアさま いやなことは私がよろこんで」ですが、この言葉には聖マリアにならって、聖マリアとともに人生の旅路を歩む女性の姿が表現されています。

聖母マリアを理想と仰ぐ本学の教職員と学生は、教皇ベネディクト十六世と心をあわせて、次のように祈りたいと思います。

「神の母にして、わたしたちの母である聖マリア。あなたとともに信じ、希望し、愛することをわたしたちに教えてください。み国に至る道をわたしたちに示してください。海の星よ、わたしたちを照らし、旅路を歩むわたしたちを導いてください。」（教皇ベネディクト十六世回勅『希望による救い』2008年）

